

道徳 - 1 (第1学年) 役割演技による話合いで考えを深め道徳的価値にせまる事例

【学習活動の概要】

1	主題名 良心の目覚め 3 - (3) 弱さ・醜さの克服, 人間の心の気高さ	
2	資料名 銀色のシャープペンシル 文部省 道徳教育推進指導資料(指導の手引) 3	
3	<p>ねらいとする道徳的価値について</p> <p>人は悲しいことやつらいことに出会い, 絶望したり, 生きる自信をなくしたりすることがある。時には誘惑に負け, 自分の欲求を満たすために自分本位な考えや行動をとることもある。その一方で, そういう自分の弱さを責め, 良心の呵責と闘うことで, 弱さを克服し, よりよい生き方をしようとする面もある。そういう自分を意識し, 人間の行為の美しさに気付いたとき, 強く気高く生きることができ, 生きることの喜びも感じるができるのである。</p>	
4	<p>資料</p> <p>掃除の時間, 「ぼく」は落ちていたシャープペンシルを, 軽い気持ちでポケットにしまった。持ち主には買ったと嘘をついてしまう。その後, 誰もいない教室のロッカーへシャープペンシルを入れておくことで問題の解決を図るが, 持ち主から疑ったことを謝られ, 心が揺れ動く。</p> <p>「ぼく」の行動は, 人間誰しもがもっている人間の弱さであり, 生徒も共感しやすい。そんな「ぼく」が自分の行動を振り返り, 心の中にある弱い部分も認めながら, それに打ち勝ち, 誇りある生き方を目指そうとする。そんな, よりよく生きようとする「ぼく」の姿に焦点を当て, 内なる良心に従うことのすがすがしさや大切さに気付かせる。</p>	
5	<p>本時の学習活動</p> <p>【ねらい】自分の弱さや醜さを克服し, 内なる良心に従いよりよい生き方をする心情を育てる。</p>	
	主な学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1. 身近な失敗場面における行動について考える。</p> <p>「招き猫に触ったら, ぽろっと手がとれてしまった。」</p> <p>そのとき, どうしますか。</p>	<p>身近な失敗場面を提示し, そのときの行動を考えることで, 本時の価値への気付きを図る。</p>
展開	<p>2. 資料を読んで話し合う。</p> <p>清掃中にシャープペンシルを見つけたとき, 「ぼく」はどんな気持ちだっただろう。</p> <p>健二に疑われたとき, 「自分で買った」と言った「ぼく」は, どんな気持ちだっただろう。</p> <p>卓也に「ごめん」と言われたとき「ぼく」はどんな気持ちだっただろう。</p> <p>・ペアで役割演技 ・ペアで話合い</p> <p>・全体発表 ・ワークシートに記述</p> <p>満天の星を見上げた「ぼく」は, どんな思いになっただろう。</p> <p>・ワークシートに記述</p>	<p>言語活動の充実(発問)</p> <p>ペアで役割演技を行うことで, 表現する楽しさを味わうとともに, 互いに学び合って考えを深める機会とする。</p> <p>「ぼく」の葛藤に迫るために, 二人組で「ぼく」の心の中にある天使の声・悪魔の声になって役割演技をさせる。その後, 全体の前で発表させる。役割演技終了後, 「ぼく」がどうすべきなのかをペアで話し合い, 記述させる。</p>
終末	<p>3. 「心のノート」を読み, 自分が考えたことをまとめる。</p> <p>・ワークシートに記述</p>	<p>良心に恥じない誇りある生き方について考えさせる。</p>

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領・道徳の第3章の第2内容の「3-(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。」に関する事例である。本事例は、自分の弱さや醜さを克服して良心に従って生きようとする心情を育てることをねらいとして、役割演技を取り入れ主体的に考えを深められるように工夫したものである。

【言語活動の充実の工夫】

本実践では、卓也に謝られて動揺する中心的な場面で、「ぼく」の心の中にある「天使の心」と「悪魔の心」という対極の立場に立った役割演技に取り組む。二人一組で役割を演じるため、すべての生徒が主体的に考えを深めることができ、異なる立場から揺さぶりをかけ合うことを通して、「ぼく」の心の中にある弱さや、良心の声などを一層浮き彫りにすることができる。

また、役割演技の後に、ペアで相談して話合いの結論を記述する活動を設定し、協同的な学びが実現できるようにする。さらに、そうした活動の後に3組のペアに役割演技を発表させ、学級全体の道徳的な見方・考え方を一層深めていく。本時では、こうした活動を通して、人間の弱さや醜さを克服し、良心に従って生きるすがすがしさに気付かせることをねらった。

言語活動の実際（展開2 - の概要）

ペアでの役割演技と話合い

- T1 卓也に「ごめん」といわれたとき、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。
2人1組でペアになり、天使と悪魔に分かれ、「ぼく」の気持ちを考えてみましょう。最後には2人の考えをまとめてください。スタートは、天使の声「ずるいぞ。」から始めてください。
- S1 ずるいぞ。
S2 別にずるくないよ。
S1 君がうそをついたのに、相手が謝っているんだぞ。
S2 ぼくは悪くない。シャープペンシルも返したし。
S1 君はそんなことして解決していいのか。正直に言ったら？
S2 これで解決したからいいんや。みんなは知らないし。シャープペンシルを落としている卓也も悪い。
S1 知っている、知らないの問題じゃない。君は自分が悪くないと思っているのか。
S2 悪いとは思うけど、自分は悪い人にはなりたくない。
S1 みんなから見たら悪くないけど、自分が少しでも悪いと思うなら言うべきだよ。

〔ペアでの話合いの結論〕

- ・やっぱり言うべきだ。遅い早いの問題じゃない。ぼくが悪いんだ。
- ・今しかない。後悔するぐらいなら、卓也のところに行こう。

全体発表

- T2 いくつかのペアに天使と悪魔になって、発表してもらいましょう。
- ペア1 (上記S1, S2に同じ)〔ペア2, ペア3については話合いの結論のみ掲載〕
- ペア2 ・謝らないと心がスッキリしないし、「うそをついてごめん」と謝ろう。
- ペア3 ・自分は何てちっぽけな心の持ち主だったんだろう。明日、卓也に会ったら、ちゃんと本当のことを言おう。
- T3 「ぼく」は、このまま黙っていることが苦しくなってきたようですね。